

還暦記念 四国八十八カ所遍路の旅の記録

第九代・清水茂久



【第1弾・平成17年11月2日発】

遍路日記（阿波：発心の道場から 土佐：修行の道場へ）

1. 発端

来年の定年まであと一年半を残す頃、『出来れば記念に何かをやってみたい。』と言う希望を持っていた。伊賀敷さんの様に山に籠るのもいいかな、しかし山で一人では何が起こるかわからない。

そんな時、義兄が4回の区切り打ちで四国一周をやったのであった。小田原の青木先輩も既に終わっていると聞いていた。それなら私は1回で回ってみたいとの願望が沸いてきた。特別に宗教の信仰心があった訳ではないが、1,200年も続いている風土を体験してみたい。

しかし、なかなか連続した40日の休みは取りにくい。仕方なく、今年（2005年）はリフレッシュ休暇の年でもあるし、来年あと2回の連続休暇を使って行く事を決意する。

2. スタートまで

今年の夏の休暇は南アルプスに行き、2回目のそれは、四国遍路を秋に実行する計画を立てていた。しかし担当の売場が替わった事もありなかなか期間が決まらなかった。それでも昨年から色々な本を読んだり、資料を集めたりと着々と準備はしていた。

特に青木さんには、10冊以上の本を貸していただき、遍路の概要を知るのに非常に役に立った。また講談社の『週刊四国遍路の旅』が出て、それに拍車をかける様な状況であった。

着る物や靴・雨対策・携行品などの準備から、四国の遍路協会からの地図の取り寄せ、行程表の作成による切符の購入・宿の予約などなど大変であった。

それでも出発の日（11月2日）が来た。朝早く起き散髪に行き、実家にて仏壇に手を合わせ、歯の調子を見てもらう。午後は足りないものなどの買い物に出かけ、忙しい時間が過ぎる。

6時前にやっと準備も終わり、家を出る。東京駅には早く着き(19:30)、軽く夕食をとり出発時間まで待つ。バスを待っている人の中には、遍路に行く人もチラホラ見られる。2回目以降の人は、杖と菅笠を持っているのですぐ分る。バスは少し遅れて出発(20:43)したが、今までの疲れからか10時過ぎにはぐっすりと眠ってしまう。

3. 第1日目＝11月3日【木】 晴れ 歩行距離＝17.5km

鳴門バス停の案内で目を覚ます。それまでは良く眠っていたようだ。しかしお尻が痛くなって、色々からだの向きを変えたりもしていた。

徳島駅に着き(5:30)、コンビニで朝・昼飯を購入し、急いで高松行きの列車に乗る(5:51発)。まるで相模線のジーゼルカーのようで、早朝で乗客はまったく少ない。

板東駅(6:10着)では若い女性と二人だけの下車で、その女性も遍路のようである(今日は十番札所まで行くとのことであった)。

駅前から道標もあり、まだ明けたばかりで人のいない街の中を、第1番札所霊山寺(りょうぜんじ6:25着)に向かう。なんとなく門前町の雰囲気は漂ってくる様である。国道に面した古めかしい大きな仁王門の前に、『いよいよ始まるのだ』という気も高ぶってくる。

しかし7時より遍路用品の販売が始まるので、それまで境内の石に腰をかけ、朝食のサンドイッチとお握りを食べながら待つ(タバコが吸いたいなあ)。

やっと本堂脇の店が開き、遍路用品一式を購入する。菅笠・杖・白衣・納経帖・ズダ袋などを求めたが、販売員のおばさんの説明が早口で、お経の所が良く分らなかった。

「まあ何とかなるだろう」と、納め札20枚位を記入して、いよいよスタートである。



この1番の本堂と大師堂にそれぞれ般若心経をあげてから出発(7:50)した。

『あれ、なんか変だぞ?』門前の遍路矢印に従って歩いたものの、見間違えたのか?もう一度自分の地図を見直す。

畑の中の道を進み、橋を渡ると、すぐに第2番札所極楽寺(ごくらくじ8:10-35)に着いた。遍路用品の販売所で一緒だった小山氏とは、しばらく行きつ、抜かれつで歩く。そんな事をしながらでも、第3番札所金泉寺(こんせんじ9:10-35)・第4番札所大日寺(だいにちじ10:50-11:28)と通過していく。

この辺は山道に入り、上りになると暑いくらいである。第5番札所地藏寺(じぞうじ11:55-12:18)から第6番札所安楽寺(あんらくじ13:35-14:10)へは、5.3^{km}と今日の一番長い距離である。

しかし、どうしてもいつも短めに自分で歩いた距離を決めているようで、これからは反省をしなくてはならない。また、先が分からないので歩く早さも、つい足早になってしまう。

今日は文化の日なので、どの札所も歩き遍路や、マイカーのグループ・バスの団体遍路さんも多く、賑わっていた。

私にとっては、今日は初日で歩く距離も短めにしたので、たいした疲れもなく、意外と早く本日の宿・第7番札所十楽寺(じゅうらくじ・14:20)に着き、ホッとする。

納経後、宿坊にて、宿泊手続きをすると、到着は本日1番目とのことであった。今夜は2組の団体と個人3名の宿泊する、静かな夜であった。また、足・腰の痛いところやマメの心配も全くない。

明るい時間に風呂に入り、下着類の洗濯もする。7時半に寝るも、9時半過ぎに1回目の目覚めがあり、その後2～3回起きてしまったが、朝6時までぐっすりとお眠ることが出来た。

4. 第2日目 = 11月4日【金】 晴れ 歩行距離 = 22.2 km

宿坊に泊まると朝のお勤めがある。6時30分から始まったが、お経の本を持っていかず失敗であった。お勤めの後に、十楽寺のご本尊で弘法大師作と伝えられる『阿弥陀如来』を間近に見ることができ、何百年の時間を引き戻されたようであった。

7時に朝食をとり、ゆっくりと出発する(7:30)。今日も昨日以上に暑く、歩き始めるとすぐに上着を脱いで、Tシャツの上に白衣を着て歩いた。

吉野川の上流に向かって、右岸に10番札所まで並んでいて、徳島高速道がその間を縫うように走っている。第8番札所熊谷寺(くまだにじ・8:40-9:12)と第10番札所切幡寺(きりはたじ・11:00-25)は、山の中腹にあり登りはきついが、それぞれの建物や石段などの配置の巧みさは素晴らしい。

特に切幡寺は長い坂道を登り、最後に333段の階段があり、今迄で一番厳しい道であった。また、第9番法輪寺(ほうりんじ・9:40-10:05)はのどかな田園地帯の中にあり、こぢんまりとまとまった静かなお寺であった。

10番から下り「うどん亭」で昼食をとる(11:55-12:40)。ここで、初めてのお接待をされてコーヒーをご馳走になる。

午後の行程は、まず吉野川に急ぎ、中州にできた2 kmの長い道を黙々と歩く。さらに本流に架かった沈下橋を渡ると、阿波市から吉野川市に入る。

しかし、そこで半分の距離で、最後の第11番札所藤井寺(ふじいでら14:45-15:20)までは、非常に疲れた。足の甲やくるぶしの上が痛くなったが、まだ何とかかなりそうである。

藤井寺の脇から入る、焼山寺への入り口を下見してから、街の中を足を引き摺りながら宿に向かった。しかし、宿の地図の位置が間違っていて、意外と時間がかかった(16:10着)。

明日は前半の最も厳しい行程なので早起きして出発しよう。ビジネスホテルに泊まったため、スーパーで明日の朝・昼食の買い物をし、活魚屋で夕食をとった。



5. 第3日目＝11月5日【土】 晴れ 歩行距離＝36.2km

昨夜は、前半最大の遍路ころがしを前に、興奮をして2～3時間しか寝ていなかったようだ。それでも、4時に起き出しカップラーメンとミカンで朝食をとり、出発の準備をする。

まだ暗い中を4時50分に出発し、昨日の住宅地の中の道を、第11番札所藤井寺まで戻る(5:30-35)。

ここから山道に入るの、ライトで道を確認しながらゆっくりと登ってゆく。端山休憩所(6:25-35)まで来ると東の空がかすかに明るくなり、街の明かりもまだ美しく輝いている。小さなアップダウンを繰り返しながら少しずつ高度を上げてゆく。

丁度疲れた頃に長戸庵に着く(7:10-15)。小さなお堂が建ち、きれいに掃除がされていた。さらに上りが続き、林が切れると四国三郎・吉野川が良く見える展望台に着いた(7:20-30)。歩きやすい道が続き一山越えて少し下ると柳水庵に着く(8:25)。戸が閉まって留守のようなのでそのまま通過する。

この先から林道を暫く歩き、鞍部から急な道を尾根に上がると、弘法大師が植えたといわれる、老大木の杉の群落の前に出る(浄蓮庵8:50-9:00)。標高745Mで焼山寺より高い。

ここから一気に350Mを下り、小さな部落に出て、左右内谷川を渡ると、いよいよ最後の焼山寺への上りとなる。今までかなり飛ばし気味に歩いて来たので、この上り返しは非常にきつかった。

また、最後のだらだらとした上りは、『どこまで歩かせるのか?』という気持ちになってしまった。それでもやっと第12番札所焼山寺(しょうざんじ10:50-11:15)に着いた時の喜びはたいへん大きかった。昔の人も同じような喜びを感じたのだろうか?と想像しながら読経をした。

しかし、ここでゆっくりとしていられない。まだ今夜の宿第13番札所大日寺まで、20^{km}以上を歩かなければならない。カーブした車道の間を直線的に下り始め、しばらくして杖杉庵に着く。

四国遍路の祖・衛門三郎の最後の地であるという。空海との出会いの大きなブロンズ像があった。さらに車道をどんどん下り、鍋岩で車道と別れ、玉ヶ峠への山道に入る。今日の最後の上りであったが、非常に急なきつい上りで、暑さも加わり、今にも心臓が壊れそうな感じがし、峠に出たときは本当にホッとした(13:00-05)。

その峠からは鮎喰川を見下ろしながらの、だらだらとした車道の下りとなった。途中、無人の『おいしい川平の湧水』と柿のお接待があり、おいしく一息入れる(13:50-55)。

その後、「柿を持って行きな」とおばさんから声がかかり、崖の上からビニール袋にあふれるほど柿をくれた。まるで4～5キロもありそうでとても長い間持てそうもない。

それでもしばらく(2～3時間)は持っていたが、丁度ガードマンがいたので、袋ごと差し上げることにした。これで身も荷も軽くなった。

林道から国道に出て須賀で休み(15:05-10)、以後、黙々と先に先にと足を運んだ。5時の納経に間に合うようにと急いだ、第13番札所大日寺(だいにちじ)に着いた時は既に暗く、17時20分になっていた。

今晚は宿坊泊まりで、着いてすぐ風呂・洗濯・夕食と最後まで忙しい1日であった。食事では食器がすべて朱塗りで、疲れた体を癒してくれるような、あでやかさがあつた。

明日は天気が下り坂の中を、7ヶ所の札所と30^{km}近くを歩くので、気が重い。



6. 第4日目 = 11月6【日】 雨 歩行距離 = 28.5 km

天気予報通り、夜半からシトシトと雨が降り出し、今日一日の行程が思いやられるスタートであった。

朝のお勤めで、大栗住職の『昔は親が子供を殺す、子が親を殺すなんてことは全くなかった。今と昔ではどちらが幸せなんだろう。』とのお話を聴き、改めて心と信仰について考えさせられました。その後、朝食・納経と急いだが、大日寺を出発したのは7時40分になってしまった。

寺の脇から裏道に入り、鮎喰川に沿って田んぼの中の道を進み、一宮橋を渡って住宅地を抜けると第14番札所常楽寺(じょうらくじ8:20-40)に着く。「流水岩の庭」と「アララギ大師」が有名である。

更に奥の院慈眼寺の前を通り過ぎると、大きな家並みの続く中で、ひときわどっしりとした瓦葺の山門の前に出る。第15番札所国分寺(こくぶんじ8:50-9:10)である。

今日は日曜日なので、雨が降っているが、グループの参拝者が多く見られる。そんな中を縫うように先を急ぐ。バイパスの脇を2^{キロ}ほど進むと、第16番札所観音寺(かんおんじ9:35-50)である。

ここまではスムーズに調子よく進んだが、次の第17番札所井戸寺(いどじ10:50-11:20)には、道と方向を間違えて、2.8キロに1時間もかかってしまった。

雨のせいばかりではなく、気が焦って急ぐと良い結果が得られない。加えて、降ったり止んだりの雨に、雨具兼用で持ってきたゴアのコートが全く役に立たず、クリーニング屋が間違えたのか、上半身がびしょりになってしまった(これ以降Tシャツと白衣で歩く)。

しかし、今は泣き言など言っていられない。ここから先はあと20キロ以上あるので、随分と気合を入れて歩く。



いよいよ徳島市内を通過する。井戸寺で分りやすい地図をもらい国道を急ぐ。途中で久しぶりにラーメンを食べ(12:20-35)、ケンタッキーでコーヒーを飲む。

それでも歩みは遅い。今夜の宿を、4.5キロ手前の民宿に変更しようかと、何度思ったことか?

しかし、これもお大師様が修行の場を与えてくださっていると覚悟すると、だいぶ楽に歩くことができた。

小松島市に入る手前で、逆打ちの野宿の若者(岐阜出身)に出会い、丁度虹がきれいだったので、お互いに写真を撮りあう。

暗くなる手前で、息を切らせながら山道を登って、第18番札所恩山寺(おんざんじ16:10-35)に着く。義経の四国への上陸地に近い、裏山の自然公園と一緒にあった広い境内である。

山から下りると暗くなってきた。車を避けながらの山間の道を約4^{キロ}歩いて、やっと第19番札所立江寺(たっえじ17:40)に着く。

宿坊では、着くとすぐに納経していただき、夕食・風呂と続き、忙しかった。同宿の1組の親娘は新百合ヶ丘の方で、今日で5日目とか、夕食のときに色々な話を伺う。

夕方から雨が止み、明日は良い天気になりそうだ。それにしても今日は良く頑張った1日であった。反省点は、朝の出発時間が遅すぎたことである。

最後の札所の納経を、何時にするのかを頭に入れておかないといけない。

7. 第5日目＝11月7日【月】 晴れ 歩行距離＝30.7km

今日は鶴林寺と太龍寺の2つの山に登るので、その時間も考慮して早々と起き出し、立江寺を出発する(6:20)。

宿坊だが朝の勤行も省かれ、朝食も6時前に用意されていたので、非常に助かった。

鶴林寺の登山口・旅館金子や(8:55-9:05)の前まで10^{km}を2時間30分で歩き、狭い国道を車を避けながらの歩行であった。

ここからはみかん畑の中の参道(狭い急坂)を登る。直登のような所もありきつい登りだ。こういう所では結構歩幅が広がってしまうので、気がつくとなめらかに歩かせていた。

それでも標高差約470メートルを70分でクリアできた。この最後のだらだらした登りはきつかった。すぐ脇に車道があり、次々と車で参拝者が通り過ぎるのが非常に気になった。

第20番札所鶴林寺(かくりんじ10:15-45)は長い石段の上に本堂があり、型通りのお経を唱え早々と納経する。境内の庭には、一面に生えたコケが美しかった。

その脇から下り道があり、太龍寺に向かう。急な道を一気に450メートル下り、そのまま静かな流れの那賀川の長い橋を渡り、若杉谷川に沿って遡る。

こんなだらだら坂で良いのか心配であったが、それでも沢に沿って高度を上げている。沢から道が外れると、尾根道にかかる。

ここで初日に会った女性と一緒に休み、お話をする。ここから一気に山頂の太龍寺まできつい上りである(標高差340M)。

第21番札所太龍寺(たいりゅうじ12:50-13:25)の広大な山頂の境内には、巨杉が林立していた。

納経所で次の札所まで3～4時間と聞いたので安心して、ゆったりとした気分で山を下る。

昨日までの街の中の札所と違って、今日は山の上に札所があり、地形と地図を見比べて歩かないと危険である。

谷を下り、峠を越えて、22番への道を進むが、田んぼに出てからが、また長かった。

そんな時、突如後ろから自転車に乗ったおばさんに呼び止められた。『22番さんはあっちの方角だから間違わぬように、これは私の気持ちで接待だからとっておきなさい。』と1,000円札を下さった。



初めてのことでびっくりしたが、大切に使おう。第22番札所平等寺(びょうどうじ16:20-40)には3時間で着き、今日の予定が終わる。

2つの山に登った割には、それ程の疲れもなく、隣にある民宿山茶花に入る(16:45)。レストランも経営している山茶花では、男性ばかり6人の歩き遍路が同宿し、いろいろな情報や話が出てきた。

特に山梨県庁OB氏は、私が『山梨百名山』をクリアしたことを話すと、自分もこの選定に当たった一人だと喜んでいて、30畳の部屋に一人で寝る。

8. 第6日目 = 11月8日【火】 晴れ 歩行距離 = 34.9 km

昨夜の同宿者のうち、3名が今夜の宿牟岐町の「あづま」まで行くこととなり、私は朝からほとんど、北海道の楠田氏と行動を共にする。

前半から結構早いペースで山の中の国道を歩き、後半は疲れが出てやっと宿に着いた。私のほうが2日遅く出発して、今日は同じ所を歩いているので疲労がたまっているのかもしれない。

特に後半は硬いアスファルトの上を歩き続けているため、足の裏全体も痛くなりペースも上がらずに、楠田氏には先行してもらおう。明日からは自分のペースで脚にやさしい歩き方をしよう。

釘打（かねうち）トンネルを出たところから、由岐町の海岸コースと国道の山越えコースに分かれる。明日からは海岸に沿った道を歩くので、今日は山越えのコースを歩く。

日和佐の町に出ると、きれいな流れの日和佐川を中心に第23番札所薬王寺（やくおうじ 11:40-12:10）の門前町が並んでいる。

山の中腹にひときわ大きく伽藍が並び、その境内からは町並みと港・日和佐城など一望であった。ここで郵便局に寄り（5万円引き出す）、昼食をとり牟岐町に向かう。

これで徳島最後の札所・薬王寺も終わり、ここまで良いペースで、順調である。



今夜の宿「あづま」はあまり綺麗ではなかったが、女将さんと先達さんの心温まるもてなしを受け、歩き遍路の良さや歴史を感じた。

特に女将さんは、皆の杖を洗ってくれたり、衣類の洗濯までしてもらい、感激であった。



9. 第7日目 = 11月9日【水】 晴れ 歩行距離 = 24.6 km

今日の行程は25キロと短いので、中休みも兼ねてゆっくりと出発する(7:45)。出掛けに記念写真を撮る。今日も楠田氏と抜きつ抜かれつで一緒に行く。

番外霊場・鯖大師(さばだいし 8:50-9:20)には、山道を越えて裏から入る。こじんまりとした静かな霊場である。ここで納経をする。

大田トンネルを出て、海南町浅川で久しぶりにコーヒーを飲む(400円)。おいしいコーヒーでトーストなどのお接待を受ける。

昼も、海部町を過ぎ那佐湾に面したところでカレーハウス(A-7)を見つけ、これも久しぶりに本格カレーを食べる(1,000円・12:20-13:10)。

今日は、初めて海岸沿いの美しい風景を見ながら歩く。歩調もゆっくりで、脚にもやさしい歩き方をした。水床(みとこ)トンネルを抜けると、高知県にはいる。



高知最初の町・東洋町の宿「南風」には3時40分に着いたが、サーファー向けのバラックのような建物で、手入れも行き届いていない、綺麗とは言いがたい宿で、残念であった。

宿泊代3000円・夕食800円・ビール450円と安かったが……。風呂に入る前に明日の朝・昼食を近くのコンビニで求める。

今日初めて高知県に入ったが、よく頑張っている。この先の試練に負けないようにしよう。

10. 第8日目 = 11月10日【木】 晴れ 歩行距離 = 35.6 km

高知県最初の札所への長い道のりは、前の薬王寺からやっと半分は過ぎたが、まだまだ先は長いので、余裕を見て朝の暗いうちに出発する。

やはり楠田氏と4時に待ち合わせ、暗い中を懐中電灯をつけて国道を歩き出す(4:15)。涼しくて気持ちがいい。

右は山・左は海の延々と続く単調な景色を見ながら、ただ前に進むだけである。青木先輩からも、「途中の唯一の街、佐喜浜のスーパーで昼食を用意するように。その先に店は無い。」とのメールも入る。この後にも再三のアドバイスもいただき、非常に役に立ち、また心強かった。

午前中は中だるみも出て、気が入らなかったが、海岸に出て昼食をとった後は、気を取り直して歩く。

予定通り、空海が悟りを開いた御蔵洞(みくろど 15:20-30)と、高台にある第24番札所発御崎寺(ほつみさきじ 16:10-45)に納経する。

やはり薬王寺からここまでは遠い道のりであり、はるか先の岬まで歩いてもいつまでも同じ景色であったり、途中のコンビニで食べ物を買って食べても、まだいくら歩かないうちにお腹が空いたり、など本当に長い道程であった。

夜は発御崎寺の新しい遍路センターで気持ちよく寝ることができた。明日も早く出るため夜中には何度も目が覚めてしまった。

11. 第9日目 = 11月11日【金】 曇りのち雨 歩行距離 = 41.7 km

今日も長い道のりであるが、天気予報によると、午後から雨になるという。暗いうちに宿を出て(5:20)、室戸の街に下り、漁港の脇を通り、1時間半で第25番札所津照寺(しんしょうじ7:05-30)の急な階段を上る。

さらに海岸沿いから山の中に入って、山道を約1時間登り第26番札所金剛頂寺(こんごうちょうじ8:35-9:00)を打つ。

ここで一緒に歩いてきた楠田氏に私が先行し、国道に下ると、丁度『道の駅キラメッセ室戸』の前に出た。そこで、朝食兼昼食の押し寿司とトマトを買う。おいしいトマトは大きくなかったので何個も歩きながら口に入れる。

さらに海沿いを進むと吉良川の昔の街並みが出る。海沿いの台風や強風に耐えてきた家々の様子が、今も充分生かされて保存されている様子がよく分った。

吉良川の畔で昼食をとる(10:25-35)。その後、ポツリと雨が落ちてきたが、羽根から岬を内側に乗越す手前で、小降りだった雨が激しくなり、ここで雨具を着ける。

蒸し暑い中での雨具は気持ちが悪い。内側のシャツは全部ビショリである。

高知からの鉄道(ごめんなはり線)の終点の奈半利は少し大きな町である。雨の中を黙々と歩き、その町を通過する頃は、少し暗くなりかけていた。それでも安田町へと長い海沿いの道をさらに進む。

やっと今夜の宿浜吉屋にザックを置いて(15:20-30)、急いで神峯寺へ出発する。ここまで30⁺を歩いてきて、更に雨の中を4⁺・標高差400mの上りである。あたりはすっかり暗くなっており、一人でただ一目散に登る。

次々と車は通過していくが、こちらは上っても登ってもなかなか着かず、これが修行かと納得しながら歩く。それでも第27番札所神峯寺(こうのみねじ16:40-17:10)に17時前に着くと、楠田氏と金川さんも既に着いていた。

皆で今日の自分を褒め合い、安心もした。暗い中で本堂と大師堂にハーモニカの演奏を納める。帰路は雨も止み、楠田氏とライトもつけずに下り、浜吉屋に戻った(18:10)。

お接待所にもなっているこの宿では、おばあさんの面倒見が良く、気持ちよく休むことが出来た。



12. 第10日目 = 11月12日【土】 晴れ 歩行距離 = 35.8 km

朝食の時間を30分勘違いし、その分出発(7:05)が遅れてしまった。
今日も朝から海岸に沿って55号線を進む。道の駅大山(8:05-15)でみかんを買い歩きながら食べる。

ここから安全な防波堤歩道を歩く。続いて安芸市に入り古い町並みも見学したかったがそのまま進む。

漁港の近くに市営球場があり、今年のセ・リーグチャンピオン、阪神タイガースの旗が風になびいていた。

ちょうど秋季キャンプ中であつたが、本日の練習はないとの張り紙があつた。

街を過ぎると土佐電鉄の廃線跡を利用したサイクリングロードが15*ほど続く。松林の中に琴ヶ浜の海水浴場など美しい砂浜を見ながらの、ありがたい道である。

極楽寺の手前でお接待小屋に招待され、お茶やお菓子、果物などご馳走になる(11:50-12:10)。

ここは、先日民主党の菅さんも立ち寄り、3日前に地元の新聞にも紹介されたので、近所の人も見に来ていた。

昼は「かっぱ市」という地元の商品が並ぶ売店で魚の押し寿司を買って食べる(12:45-13:15)。

今日も陽射しが強く、Tシャツで歩く。それでも後半は、海岸沿いから内陸に入り、坂もかなりバテ気味であつた。

当初予定の宿より手前の宿泊(丸米旅館 15:45着)に変更し、第28番札所大日寺(だいにちじ 16:20-50)をピストンする。それでも5時に間に合うように随分と、一生懸命歩く。

大日寺では、偶然にも19歳の野宿君、金川さん・楠田さんと皆がそろつた。

丸米旅館に戻ると(17:20)、楠田さんの足首が腫れていて、「明日は一緒に歩けそうもない」と、湿布薬を買いに薬屋さんに行った。

明日からどうなるか心配だ。宿は明るく、食事もおいしかった。明日は29番国分寺に直行するため、朝食は取らずに早く出るつもりだ。



《翌日から、楠田さんは高知大学付属病院に1週間入院した。退院後高知・愛媛をレンタカーで、香川を歩きで遍路し結願した。

12月上旬高野山のお礼参りも終え、無事旭川に帰ったとの報告をいただく。》

13. 第11日目 = 11月13日【日】 晴れ 歩行距離 = 40.1 km

夜中になかなか寝付かれず、何度も起きてしまった。しかし、連日の寝不足もあり、寝入ってしまったからは寝坊するほど熟睡してしまった。

一人で朝食のパンを食べ、出発する(5:30)。楠田氏には申し訳ないと、玄関で頭を下げる。

昨日28番を打ち終わっているのので、今日は29番に直行する。阿佐線(ごめん・なはり線)に沿った国道364号線を、後免経由で約11キロの道のりである。

やはり11月も半ばになり、風も冷たく、少し寒さを感じながら、国道を高知に向かって歩く。

まだ暗く澄んだ空気に、星もきれいだ。物部川の長い橋を渡り、もう少しで後免に着く頃、大きな交差点で、軽乗用車のおばさんに国分寺への道を確認すると、地図上ではこの先から右に曲がるのに、『ここを右に曲がり、陸橋を越えると遍路道に出ます。』とのこと。

そこで、その言葉を信じて、その方が近いのかな、ここはどの位置なのかをよく詮索もせずに行動してしまった。これが失敗であった。なんと大きく迂回する羽目になってしまったからだ。この朝の距離を稼がなければいけない時に、全く頭にきた。しばらく興奮が収まらなかったが、これも大師様の修行かと自分を納得させる。

普段は車だとたいした距離でもないのに、歩きでは本当に疲れる。小さなミスが行動に大きく影響し、大きな差になってくるからだ。

それでも田園地帯の中で、美しい日の出も見ることができて、第29番札所国分寺(こくぶんじ7:50-8:20)に着く。

ここの駐車場で一夜を明かした野宿の若者伊久美君が待っていて、今日は一緒に回りたいと言う。結構読経など様になっている。彼とは、7日の太龍寺の下山中に、彼のザックを直してあげた時に会っているが、その時はここにいる野宿君だとは気がつかなかった。もっと年上に見えた様だから...

国分川に沿い、田んぼの中の道から山道にかかり、遍路小屋で休み(9:10-15)、逢坂峠を越え、街に入るところに、第30番札所善楽寺(ぜんらくじ9:45-10:05)がある。土佐一宮の土佐神社と並んで、こぢんまりとしたたずまいを見せている。

そこから高知市の外周を迂回するように、何本も運河を渡り、五台山の竹林寺に向かう。

急な登りに汗をかき、牧野富太郎の記念館と植物園の脇を通り、山門の前に出る。第31番札所竹林寺(ちくりんじ11:40-12:10)は、落ち着いた雰囲気ので、美しい庭でも有名だそう。

門前の食堂で昼食(12:15-40)をとり、林や畑の間を抜け、海岸に向かう。短い急な登りをあがると第32番札所禅師峰寺(ぜんじぶじ14:15-35)である。桂浜方面の風景が美しい。

ここを下り、再び長い国道を海岸に沿って進む。日曜日でも多く、桂浜でも多くの観光客に出会った。

浦戸大橋は大きく長く、高くまた怖い。これが歩いてみて感じたことである。

このような橋の上を歩くのは初めてで、フェンスが張ってあっても、やはり怖いものだ。



桂浜への道も良く分らず、何とか標識を頼りに行くと、金川さんに出会う。そこで、19・29・59歳の3人がまるで家族のように坂本龍馬の像の前で写真を撮る(16:40)。

龍馬像は砂浜に建っているものと想像していたが、松林の中の丘の上に建っていたのでビックリした。夕闇も迫って、海辺にも下りずに、早々と宿に向かう。

評判の高知屋は建替え中とのことで、関の家を紹介された。こぎれいな遍路宿であった(17:25着)。

予定の雪蹊寺は明朝になってしまった(フェリーに乗れば間に合った)が、龍馬の桂浜を見ることができ、満足であった。体調は寝不足以外は順調であり、足の豆も出来ていない。



14. 第12日目=11月14日【月】曇り時々雨 歩行距離=31.8km

今日は朝から、全く一人の行動となる。曇り空から、ぽつぽつと雨が降ってきて、途中から本降りになるが、最後まで気を抜かずに予定通りの行程をクリアすることができた。

朝6時半に朝食をとり、宿(7:10発)から15分で、第33番札所雪蹊寺(せっけいじ7:25-8:00)に着く。納経所でずいぶん待たされて、時間をロスしてしまう。

そこから、新川川に沿って上流に進むが、その後、この新川川の開発に尽くした、野中兼山の多くの遺跡に出合った。

豊かな田園の中に建つ、第34番札所種間寺(たねまじ10:30-50)ではお接待にお菓子を1袋いただく。

次まで約10^{km}の道は、仁淀川を渡り土佐市内を抜けて、地図に無い新しく出来たバイパスに道を迷わされ、最後にみかん畑の中の急な山道を登ると、第35番札所清滝寺(きよたきじ12:20-50)に着く。



ここでは金川さん、伊久美君らが既に着いて、外人を含めた数人の若者が談笑していた。この時金川さんから『楠田さんが入院したらしい。』と聞き、ビックリすると同時に、情報が早く伝わる事に感心する。

更に14^時に進む。山を下り・街を過ぎ・田んぼを抜けて、山道の塚地峠を越えると、漁港の町宇佐市に出る。

海岸の町並みを通り宇佐大橋を渡り、静かな浦戸湾に沿って歩くと、まもなく今夜の宿三陽荘がある。

そこに荷物を預け(16:10)、第36番札所青龍寺(しょうりゅうじ16:25-50)の急な階段を上る。

本当に長い急な石段で、急ぎ足で下に辿り着いても、最後の急坂を登るのは実に大変である。

今日一日は、天候と、行程に非常に変化のある遍路が出来た。特に後半は長い距離を歩き、時間との兼ね合いで急ぎ足になった。

そのため左足のふくらはぎが痛くなり、明日が心配される。

三陽荘は遍路者に焦点を当てた宿のため、ホテルほど高くなく、ホテル並みの十分な設備の整った宿であった(17:10着)。これで、無事に36番を打ち終わり、今回の予定札所をすべてクリアすることができた。



15. 第13日目=11月15日【火】 晴れ 歩行距離=24.4km

いよいよ今日が最終日となり、もっとこの先に遍路を続けて行きたい気持ちと、早く家に帰ってゆっくりしたい気持ちが絡み合った朝であった。

朝は少し冷え込んだが、歩くのにはちょうど良い気温である。最終日とはいえ次回の遍路に繋がりやすいように、須崎の駅まで内之浦湾を25^{km}ほど歩かねばならない。

三陽荘のフロントの方に記念写真を撮ってもらい、昨日渡った宇佐大橋まで戻るルートで出発する(7:10)。

静かな内之浦湾を左に見ながら、複雑に入り組んだ道を、ただただ進むだけである。



単調な歩みに昨日までの疲れが加わり、気分が落ち込みそうになる。しかし良くここまで靴と脚がトラブルも無く耐えてきたものである。

のどかな漁村の風景を繰り返し、無人のスタンドで買ったみかんを食べながら歩く。「民宿さざなみ」の前の分岐で押岡川経由の道をとる（10:30）。

美しい砂浜が続く横波公園（10:40-50）を過ぎると、内陸の峠道に向かう。すると、すぐ前を横浪道路から来た金川さんが歩いている。

偶然に良く逢うもので、東京を出たときからずっと、私とほぼ同じペースで来ている。

話を聞くと、小さい頃からよく山に行き、昨夏は北アの南岳小屋でアルバイトをし、付近の山々のルートを残らずクリアしていたとの事で、どうりで脚が強いのが納得できた。

押岡橋の手前の喫茶店に入り、久しぶりにカレーを食べコーヒーを飲む。

店に入った時は、あまりきれいでなく失敗したかと思ったが、おいしいカレー（600円）と、お接待のおいしいコーヒーをご馳走になり、大満足であった。

整然とした港町・須崎に入り、番外霊場・大善寺（だいぜんじ 14:00-30）を打つ。

街のはずれの、ものすごく急な階段の上に伽藍があり、そこからの眺めが良かった。金川さんとここで別れ、須崎の駅に向かう（14:55着）。

すぐに高知行きの列車に乗る（15:08発）。これで今回の巡礼の旅は、予定をすべて終えた。

次回はこの駅からのスタートとなる。

空いていた始発の列車も、高知駅に着くまでに次々と高校生の集団が乗車してきて、一杯であった。車窓から遍路道を探したが、よく分らなかった。



南国高知はそれ程の大きな町ではないが、市街電車が走り、県庁所在地だけあって多くの人の群れと建物があった。有名なはりま屋橋を見学し、駅ビルで夕食をとり、お土産を少々買い、高速夜行バスを待つ。

バス待ちの間、名古屋の遍路老夫婦と色々話していると、29番（国分寺）と30番（善楽寺）の間にある、高知大学病院の前で歩けなくなった楠田氏に会い、救急センターに入るのを見た、話してくれた。

定刻にバスは出発し、11月16日（水）朝予定通り懐かしい東京駅に戻る。バスの中では寝苦しかったが、今までの疲れからか、よく眠った。

16. 反省とまとめ

心配しながらスタートした第1回目の四国遍路は、たいしたトラブルも無く、ほぼ計画通り無事終了し、ホッとしている。

通常のコース設定よりハードな計画を組んだため、無理であったら高知市の手前まででも仕方がないとスタートしたが、順調に進むことが出来た。

特に体調・足回り・宿などの環境、等々に問題が起きなかったことは良かった。

しかし、当初の目的の『心を鍛える』は、ほとんど出来なかったので、次回からはそのことを充分考えて行こうと思う。

- ・足回りは、少し大きめの軽登山靴に、中厚の靴下を2枚はき、足全体を包んでしまう様な感じで、マメは1箇所も出来なかった。そのため、用意していたテーピングテープは一度も使わなかった。また、『バイオテックス』というスポーツタイツを着用したことも、脚力の疲労感を軽減したのかもしれない。
- ・天候に恵まれたこともあった。2日半は雨に降られたが、晴れた日が多く非常に助かった。気温も暑くも無く、寒くも無いといった状況で、Tシャツ1枚に白衣を着ることが多かった。
- ・宿は、宿坊・民宿など事前の情報が合ったものは良かったが、それ以外のは当たり外れがあった。事前に遍路案内書や紀行文などから調べておくと良い。また、宿を朝食前に出発する際、事前にお握りに変更するように依頼したが、すべて断られてしまった（予約の時確認しておくが良い）。
- ・般若心経の読経は、事前に準備していかなかった為、慣れるまで大変であった。次回からはテープを購入して、練習してから出発しようと思う。

次回は、2月末か3月上旬に行ければと思っている。

《参考》新たに始める方に・・・

- ・行く前に地図を用意しておきたい
『へんろみち保存協力会編・四国遍路ひとり歩き同行二人』（2冊・問合せ先 089-952-3820）
- ・巡礼の紀行文を読んでおきたい
（1）岩波新書 辰野和男著 『四国遍路』 780円＋税
（2）文春新書 月岡祐紀子著 『平成娘巡礼記』四国八十八ヵ所歩きへんろ 700円＋税
*（2）は女性の方に読んでもらいたい